

「早寝・早起き・朝ごはん」は、活力の源



子どもに、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを定着させましょう。

- 成長期の子どもが健やかに成長していくためには、十分な睡眠・休養、栄養バランスのとれた食事、適切な運動が必要です。
- 規則正しい睡眠と毎日の朝ごはんを摂っている子どもほど、勉強も運動もよくできるというデータがあります。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを確立することが大切です。



「早寝・早起き・朝ごはん」のポイント

● 思春期に必要な十分な睡眠

夜型の生活になりがちですが、身長を伸ばす成長ホルモンは寝ている間に分泌されるため、十分に睡眠をとることが大切です。

● 親も朝型の生活を

大人の夜型の生活に子どもを巻き込んでいないでしょうか。大人と子どもの境界線を引くとともに、できるだけ親も朝型の生活を心がけましょう。

— 朝の出だしをポジティブに始めれば、一日をポジティブな気分で過ごせる。 —

朝食を毎日食べるメリット



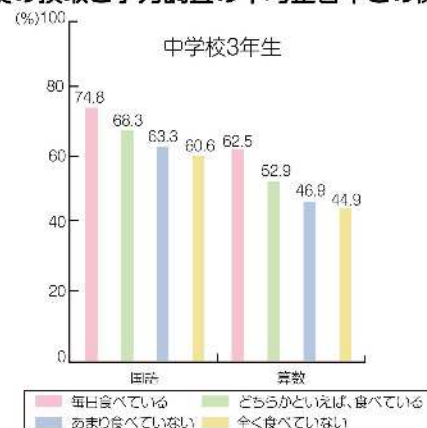
栄養バランスのとれた朝食を食べさせましょう。

- 朝食は一日の生活のスタートであり、エネルギー源です。朝食をしっかり食べることによって集中力ややる気が出て、勉強や運動に身が入ります。

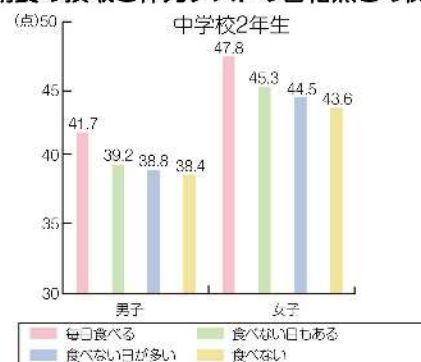


- 全国的に、朝食を毎日食べる子どもほど、学力調査の正答率が高く、体力テストの合計点も高いという結果が出ています。

朝食の摂取と学力調査の平均正答率との関係



朝食の摂取と体力テストの合格点との関係



朝食を毎日食べるポイント

●「早寝」がポイント

早起し、朝ごはんをしっかり食べるためには、早寝が必要です。そのために、就寝時刻を一定にすることが大切です。

● 栄養バランスのとれた食事を

食事の内容も重要です。できるだけ、主食、主菜（たんぱく質が中心のおかず）、副菜（野菜が中心のおかず）、汁物等の栄養バランスのとれた食事を用意しましょう。

心が安らぐ家庭に



できるだけ、子どもに笑顔で接するようにしましょう。

- この時期の子どもは、イライラ・モヤモヤした気分になりがちです。家に帰った時に、ホッとできるような居場所づくりを心がけましょう。
- 子どもは、「家族が楽しく過ごすこと」を願っています。この時期の子どもも、親や家族のぬくもりを求めています。
- 食事を共にすることで、家族の一体感や連帯感が強くなります。家族によって生活リズムが違いますが、休日などは、できるだけ家族そろって食事をしましょう。



ホッとできる家庭にするポイント

● 親の笑顔が子どもの力に

子どもは見えていないようで、親の顔色をうかがっています。親が笑顔を見せれば、子どももホッとできます。その安心感が元気や活力につながります。

● 「お帰りなさい」

「お帰りなさい」の一言がどれだけ子どもの心を癒すことでしょうか。親の帰宅が遅くなる場合は、冷蔵庫などにメッセージを残しておくなどの工夫も効果的です。

● 家族一緒にの食卓に

親しく会話する雰囲気づくりを心がけましょう。子どもにとって耳の痛い話は、食後に時間をとってするようにするとよいでしょう。

家事の分担は自立への道



家事の分担をさせましょう。

- 子どもに家事を分担させることは、家族の一員としての自覚と責任感を高めます。また、家庭内での自分の居場所や存在価値を確認することにもなります。
- 家事を分担することは、「身近生活の自立」に向けて必要な生活能力や生活技術を身に付ける基盤になります。



家事を分担させるポイント

● 子どもの自己決定で

勉強が忙しくなるので家事をさせないという考え方は、子どものためになるとは限りません。でき得る家事を、子どもに決めさせることがポイントです。

● 「ありがとう」の一言を

ねぎらいの言葉は、子どもの自己有用感（自分が役立っているという実感）を高め、やる気を引き出します。

● 「我が家の○○主任」

例えば、子どもが風呂の掃除を分担したときは「我が家の風呂主任」と名付け、責任感を高めるようにする方法があります。

● 怠けた時こそ「責任」を教えるチャンス

決して頭ごなしに責め立てないで、「お風呂場、汚れているようだけど…」などと促す言葉かけがよいでしょう。怠けが続くようなら、責任を果たすことの大切さを教えましょう。

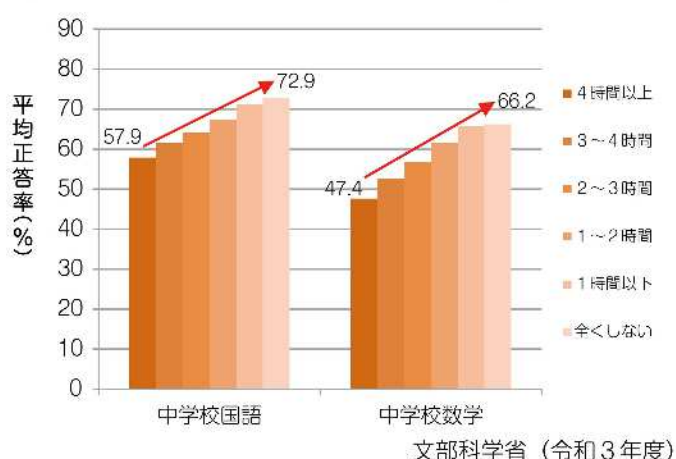
携帯電話やインターネットは使いよう



子どもがテレビを見たり、インターネットをしたりする場所は家族が見える場所にしましょう。

- 個室での携帯電話（スマートフォン）やインターネットは、使い方一つで、役立つ道具にもなれば、身を危険にさらす道具にもなります。
- ネット依存になったり、有害情報に触れたりする危険性があります。
- テレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）の時間が少ないほど、全国学力調査の平均正答率が高いという傾向が出ています。

「テレビゲームの時間」と「平均正答率」との関係



安全な使い方のポイント

● 危険から身を守る方法を教えるのは、親の役目

知らない人に個人情報を与えないなど危険から身を守る方法について、親が教えましょう。相談先など、困った時の対処法も確認します。

● 「我が家のルール」の設定

携帯電話・スマートフォンがどうしても必要な場合は、買い与える時に子どもとよく話し合い、「我が家のルール」を決めることをお勧めします。

● フィルタリング機能、スクリーンタイム機能の設定

インターネットについては、子どもが有害な情報に触れないように、フィルタリング機能を適切に設定します。

また、子どもが長時間画面を見ることのないようスクリーンタイム機能*を設定します。

※スクリーンタイム機能：子どものインターネットやアプリの利用状況を把握したり、利用時間を制限する機能です。

品川区では、授業や家庭学習で活用するタブレット端末を1人1台配備しています。インターネットの閲覧にはフィルタリングをかけて安全に配慮しています。また、インターネットは夜9時まで使用でき、他の学習支援アプリは夜9時以降も使用できますが、家庭のルールに基づき適切に利用していただくよう、お願いします。

※令和4年3月より、タブレット端末にもスクリーンタイム機能が利用できるようになりました。

携帯電話のルールづくり（例）



携帯電話やインターネットの「我が家のルール」を決めましょう。

- 品川区では、『携帯電話「しながわアクション」』で、小・中学生に本当に携帯電話・スマートフォンは必要か、保護者の皆様に問いかけをしております。
以下は、どうしても携帯電話・スマートフォンを持たせる場合のルールづくりの参考例です。

＜ルールを決める時＞

- 実際に起こったトラブルや犯罪等の話を例にして、ルールの必要性を確認します。
- 一方的な押し付けにならないよう、子どもと話し合って決めます。
- トラブルが起こった時やルールが守れなかった時の対処法を盛り込みます。

＜ルールを決めた後＞

- 紙に書かせ、目にする場所に貼っておきます。守ろうという意識付けができます。
- 「我が家のルール」を友達にも伝えるように、子どもに話します。友達が理解していないと、ルールが守られなくなる場合があります。
- 実際の状況により、ルールを見直すための話し合いをする必要もあります。
- 携帯電話・スマートフォンで子どもの交友関係が飛躍的に広がる場合があります。これまで以上に親子の会話を大切にしましょう。



我が家の携帯電話のルール（例）

- 1 家では、居間のみで使用します。
- 2 夜9時以降は携帯電話・スマートフォンをさわりません。
- 3 勉強中や食事中は、電話もメールもしません。
- 4 携帯電話・スマートフォンの保管・充電場所は居間にします。
- 5 メール本文は、送信する前に読み直します。
- 6 自分がされて嫌なことを、他の人に決してしません。
- 7 困ったことがあったら、どんなことでも親に相談します。

「ルールを守れない使い方はしない」と約束します。

年 月 日 名前（ ）

高めたい危険予知・回避能力



普段から危険な場所や行為のリスクについて話し合いましょう。

- 様々な場面での発災を想定し、「いざ」という時に、どのように行動するか日頃から確認しておくことが大切です。
 - 学校にいる時
(学校が生徒の安全確保をし、原則として保護者が引き取る。)
 - 登下校中 ● 家で子どもだけの時 ● 外出先で
- 8年生は学校生活にも慣れ、緊張感が薄れてくる学年です。その分、事故や事件に巻き込まれる危険性があります。
- 9年生になると、行動面で落ち着きが見られるようになる反面、進路選択や受験勉強等のストレスがたまります。子どもが家で安心して過ごせることが、事故防止にもつながります。



危険予知・回避能力を高めるポイント

● 具体例を挙げて

ただ「気を付けなさい」ではなく、何が危険か、どうすれば避けられるか、具体的に注意を促すようにしましょう。親自身の体験や同年代の子どもの事件・事故等を例に挙げると、説得力が出ます。

<事故事例>友達とおしゃべりに夢中になり交差点に進入（他府県の例）

中学2年生の男子生徒が自転車と友達2人と並走していた。見通しの悪い交差点に差しかけた際、友達2人は交差点手前でいったん停止したが、男子生徒はおしゃべりに夢中になり、そのまま交差点に入ってしまった。ちょうどその時走行してきた乗用車と衝突した。

● 正しい判断力を

「赤信号、みんなで渡ればこわくない」といった集団心理や、急いでいる時に交通ルールを無視するなど、自分本位の行動も見られることがあります。誰も見ていなくても、正しく判断し行動することが、自分や相手を守ることに繋がります。

「生きる力」をはぐくむ体験・ボランティア活動



子どもに、体験活動やボランティアなどの地域活動に参加することを勧めましょう。

- 机に向かった学習も大切ですが、体験活動は「生きる力」(知・徳・体のバランスのとれた人間力)をはぐくむうえで重要です。
- 自然の中で美しいものや命に触れる体験をすることで、豊かな感性をはぐくみます。また、自然環境を大切にする心や自然の厳しさに耐える「がまんの心」などを学びます。
- ボランティア・地域活動に参加することは、様々な人々との交流を深め、地域に目が向く契機となります。また、地域の一員としての自覚を高めます。



体験・ボランティア活動をさせるポイント

● 自然体験の勧め

山や海など自然の豊かな所に連れて行くと、自然に触れる良さに気付くことができます。夏休みにキャンプに行くなど、企画してみるのもよいでしょう。

● 地域行事や年中行事に親しむ

祭りなど地域行事に参加したり、運営に参画したりすることを勧めましょう。また、家庭で正月や節分、大掃除などの年中行事を行うことも、日本の伝統文化に親しみ、社会性をはぐくむ基盤となります。

● ボランティアは、身近にできることから

身近な地域で仲のよい友達やグループなどで行うと、取り組みやすいでしょう。品川区のホームページや広報紙にもボランティア募集のお知らせが載ります。

反抗期への向き合い方



反抗は成長の過程と受け止め、むきにならず見守る姿勢で対処しましょう。

- 自我が芽生え、それまで絶対的な存在であった親を客観視するようになります。また、親の言いつけやきまりに疑問をもち、「自分のことは自分で決めたい」と強く思うようになります。
- 親が今までと変わらずに子ども扱いして、反発するケースもあります。反抗は思春期の特徴であり、自立への成長過程と考えることが大切です。



反抗期の子どもに向き合うポイント

● ゆったり構える

口を利かないなど子どもの反抗的な態度に過剰に反応しないことが第一です。怒って無理やり謝らせたり、逆に腫れ物に触るようにビクビクしたりしないようにしましょう。いざという時の親の存在感が大切です。

● 子どもと対等にならない

口汚い言葉をぶつけてきた時などに、子どもと対等になって反応しないことが大切です。怒りが込み上げてきたら、一度引いて心を落ち着かせ、そして、ユーモアと笑いで切り返す余裕をもつように心がけましょう。

● 受容はしても、許容はしない

子どもの不満などネガティブな感情は受け止めても（受容はしても）、暴力や他人への迷惑などの行為は認めない（許容はしない）姿勢が大切です。以下は、参考例です。

<いらだって物を投げたり、壁を蹴ったりするA君への対応例>

A「部活で、今日も悪口を言われたよ。もうやめたいよ！」

父「そうか。今のおまえの気持ちではそうなるね。うん。よく分かる。

よく分かるけど、物を投げたり、壁を蹴ったりするのは認められないよ。

好きなサッカー部をやめるかどうかは、よく考えてみよう。いつでも相談にのるよ。」

「相談したくなる親」の条件



ふだんから子どもの変化（サイン）を見逃さないようにしましょう。

- 子どもの気持ちよりも、親の都合を優先していないでしょうか。そういう状況では、子どもは「自分を分かってくれない」と素直になれません。
- この時期は、一人の対等な人間として子どもに向き合い、互いの考えを語り合って、分かり合おうとする親子関係づくりに努めましょう。



「相談したくなる親」になるポイント

● 「子どもの味方」メッセージ

親はいつでも子どもの味方であることを態度で示して、「親から愛されている」という実感をもたせます。「何があっても、あなたの味方」というメッセージは、子どもに安心感を与えることでしょう。

● まずは、聞く姿勢

たとえ、子どもの相談に的確なアドバイスができなくても、話をじっくり聞いて、悩みをしっかりと受け止める姿勢が大切です。子どもは聞いてもらえることで、つらい気持ちが和らぎ、解決への糸口がつかめるようになります。

● ネガティブ（否定的）な気持ちを、共感的に受け止める

子どものネガティブな気持ちを否定したり、そらしたりしないで、まずはそのまま受け止めることが大切です。以下は参考例です。

【子】「お母さん、私、みんなから嫌われているかな？」

【母A】「そんなことないと思うよ。お母さんはあなたが好きよ。」

（▲子どもは半分ほっとするけれど、モヤモヤが残る。）

【母B】「嫌われているのかなと思うと、落ち込んだりするよね。」

（○子どもが自分の気持ちを更に話すきっかけとなる。）

夢の実現への後押しを



子どもの進路選択について話し合い、励ます言葉かけやアドバイスをしましょう。

- 「人は夢を育て、夢は人を育てる」と言います。夢や希望は、その実現に向けて努力しようとする意志や力を子どもに与えます。
- 自分の将来の夢や目標を見据え、具体的に進路計画を立てる時期です。親は子どもの希望を尊重しつつ、人生の先輩として適切なアドバイスを心がけましょう。そして、子どもがより良い自己決定ができるように、応援する姿勢でかわりましょう。



子どもの応援団になるポイント

● 夢や希望をはぐくむ、明るく前向きな家庭

将来に夢や希望がもてるように、家庭では明るく前向きな話題を多くしましょう。子どもが将来の話をしたら、聞いて励ましましょう。

● 親自身の経験や努力している姿を伝える

成功体験だけでなく失敗体験も話すと、子どもにはインパクトをもって伝わります。また、親自身が目標をもち、努力する姿を子どもに示すことができると、子どもの志気も高まることでしょう。

— 夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、
実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。 —

ピンチをチャンスに



子どもが問題や悩みを抱えた時に、しっかり向き合い、共に解決しましょう。

- 子どもは様々な問題や悩みに直面し、それらを乗り越えることで成長していきます。
- ピンチのときこそ、家族の絆が試されます。親をはじめ家族に思いやりがあると、それが励みとなり、子どもは問題に立ち向かう勇気と力がもてるでしょう。
- 子どもの問題やトラブルは、これまでの子育てや子どもへのかかわり方を見直すチャンスと捉え、改善に向けた努力をしましょう。まさに、「ピンチはチャンス」なのです。



「ピンチをチャンスにする」子育てのポイント

● しっかり向き合う

子どもは、親が真剣に向き合ってくれているかどうかを敏感に感じ取ります。時間がかかっても、共に問題の根本的な解決を図ることが大切です。

● 支える言葉と突き放す言葉

まずは、「大変だったね」「無理に頑張ることはないよ」などの支える言葉をかけ、安心させます。「つらいのはあなただけではないよ」「クヨクヨしていても同じだよ」などの言葉は、子どもを突き放し、さらに傷つける恐れがあります。

● 親の姿・振る舞いに子どもは心を動かされる

子どもが人に多大な迷惑（怪我をさせるなど）をかけた時に、親がどのように対処するかが問われます。子どもと一緒に相手先に赴き、頭を下げ謝罪する方法をとることにより、子どもは事の重大性を感じ取り、心からの反省につながります。